

京都府内（京都・舞鶴）における 降水量の変化傾向

平成21年2月10日

京 都 地 方 気 象 台
防 災 業 務 課

はじめに

京都地方気象台では、100年以上にわたり気象観測を続けており、地域の気候の変化や変動を監視するため、気温や降水量の長期変化傾向などを調査しています。

京都府内において、長期にわたり気象観測を行っているのは京都地方気象台と舞鶴海洋気象台です。

京都地方気象台は、1880年（明治13年）1月に京都御苑内において気象観測を開始しました。その後、観測場所を1913年（大正2年）4月に現在地（京都市中京区西ノ京笠殿町）に移し、現在に至っています。

舞鶴海洋気象台は、1947年（昭和22年）4月に東舞鶴の文庫山において気象観測を開始し、観測場所を1974年（昭和49年）7月に現在地（舞鶴市字下福井）に移し、現在に至っています。

京都地方気象台が現在地に移転し90年余りが、舞鶴海洋気象台が現在地に移転し30年余りが経過しました。それぞれ継続的に観測された降水量を用いて、下記項目の変化傾向を調べたものがこの調査資料です。

1. 年平均変化傾向
2. 季節別変化傾向

この調査資料を見ますと、降水量の長期的な変化は見受けられませんが、京都では降水量の年々変動の大きさが大きくなっている一方、舞鶴では年々変動の大きさに変化が認められません。

近年、地球温暖化など地球環境問題に関心が高まっていることから、この調査資料が地域の皆様の環境問題への取り組みや農業分野など産業への一助となれば幸いです。

なお、京都府内の気温の変化傾向については、「京都府内（京都・舞鶴）における気温の変化傾向（平成20年2月6日）」を参照いただけますようお願いいたします。

また、日本全体の状況は、異常気象レポート2005（気象庁）に詳しく掲載されております。

平成21年2月10日

京都地方気象台防災業務課

年降水量

年降水量の変化傾向（100年あたり）

京都 — 3.6% 減少傾向（統計期間：1881年～2007年）

年降水量の変化傾向（50年あたり）

京都 — 20.5% 減少傾向（統計期間：1948年～2007年）

舞鶴 — 19.5% 減少傾向（統計期間：1948年～2007年）

京都と舞鶴の年降水量の変化傾向を見ますと、1950年代に多雨の時期がありました。長期的に見ると、1950年代以降緩やかに降水量が減少しているように見えます（図1）。

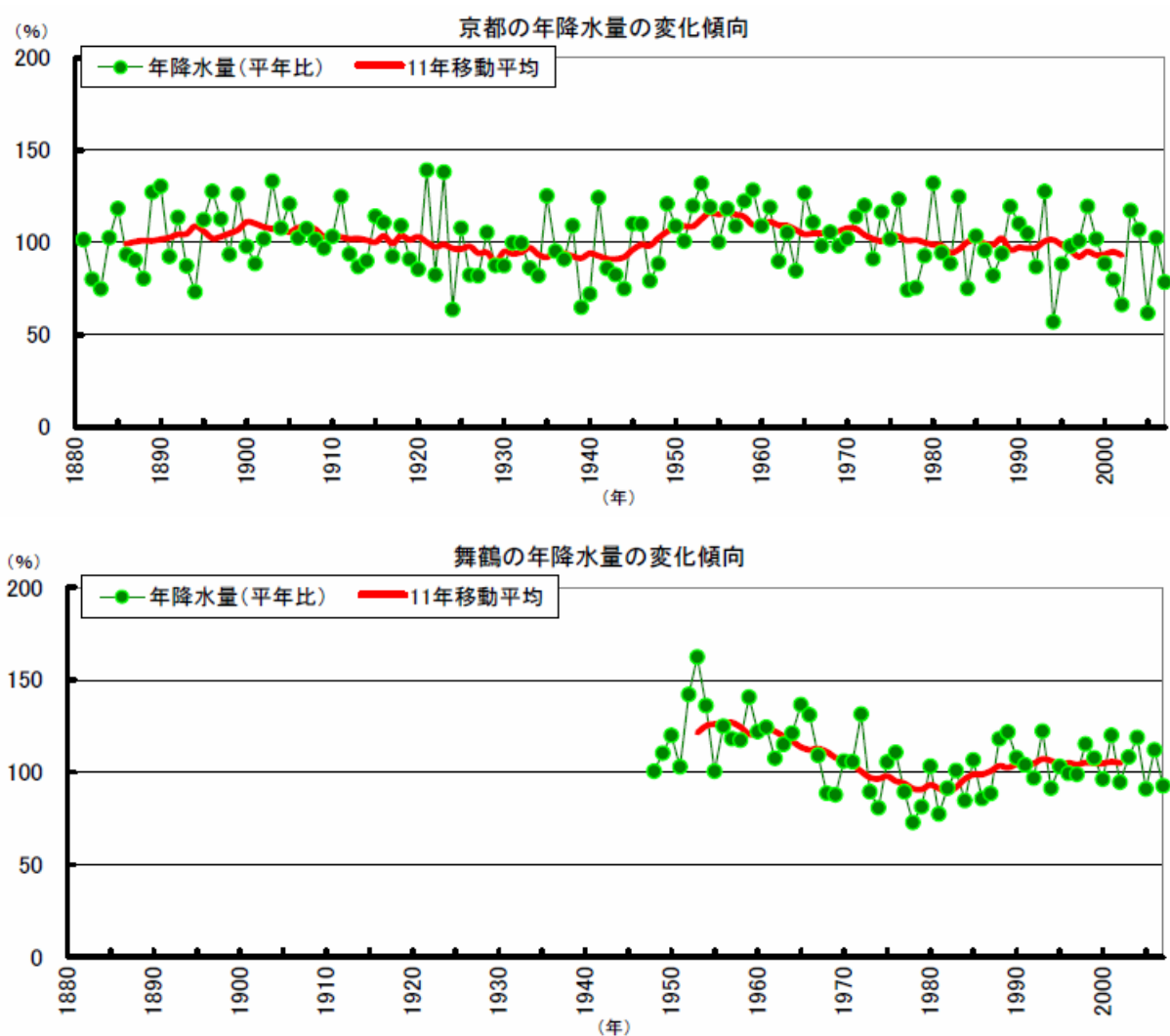


図1 年降水量平年比の変化傾向（京都・舞鶴）

平年比とは、平年値との比（平年からの違いの程度）を示します。現在用いられている平年値は1971年から2000年までの30年間の平均の値です。

京都の長期的な変化傾向を表 1 に示します。

表 1 京都と舞鶴の年平均気温の変化傾向

	変化傾向（100 年あたり）	変化傾向（50 年あたり）
京 都	－3.6% 減少傾向 （統計期間 1881 年～2007 年）	－20.5% 減少傾向 （統計期間 1948 年～2007 年）
舞 鶴		－19.5% 減少傾向 （統計期間 1948 年～2007 年）

異常気象レポート 2005（気象庁）の「西日本太平洋側の平均降水量の長期変化傾向（1898 年～2004 年）－5.4%/100 年」と比べると、京都の長期的な変化傾向も同程度の減少傾向を示しています。近年は、京都では降水量の年々変動の大きさが大きくなっていることが認められる一方、舞鶴では降水量の年々変動の大きさに変化が認められません。

季節別降水量

年降水量と同様に、春（3 月から 5 月）、夏（6 月から 8 月）、秋（9 月から 11 月）および冬（前年 12 月から 2 月）について、季節別の変化傾向を調べました（表 2 および表 3、図 2-1 から図 2-4）。

表 2 京都の季節別降水量の変化傾向（100 年あたり：統計期間 1881 年から 2007 年）

	春（3 月～5 月）	夏（6 月～8 月）	秋（9 月～11 月）	冬（12 月～2 月）
京都	－6.6%	＋3.5%	－8.2%	－12.2%

表 3 京都と舞鶴の季節別降水量の変化傾向（50 年あたり：統計期間 1948 年から 2007 年）

	春（3 月～5 月）	夏（6 月～8 月）	秋（9 月～11 月）	冬（12 月～2 月）
京都	－18.6%	－29.2%	－11.5%	－18.0%
舞鶴	－3.5%	－20.7%	－25.0%	－19.5%

京都の季節別降水量の長期変化傾向（表 2）を見ますと、冬（12 月から 2 月）は他の季節に比べて大きな値となっています。この傾向は、異常気象レポート 2005（気象庁）に示された地域別の調査結果と一致します。

最近 50 年間の変化傾向を示した京都と舞鶴の季節別降水量の変化傾向（表 3）を見ますと、京都では夏（6 月から 8 月）が他の季節に比べて大きな値となっています。一方、舞鶴では春（3 月から 5 月）が他の季節と比べて小さな値となっています。

また、季節別降水量の変化傾向を示した図（図 2-1 から図 2-4）を見ますと、年々の変動が大きいことが認められます。

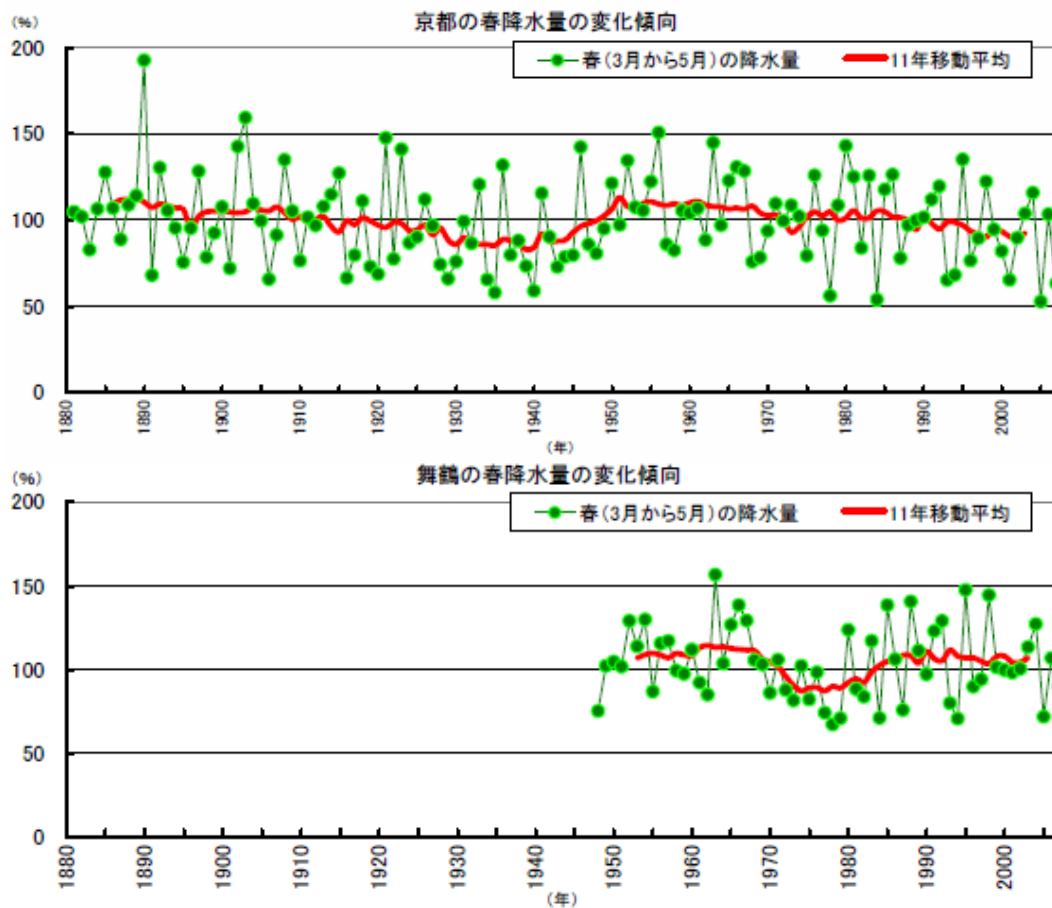


図 2-1 春（3 月から 5 月）降水量平年比の変化傾向（京都・舞鶴）

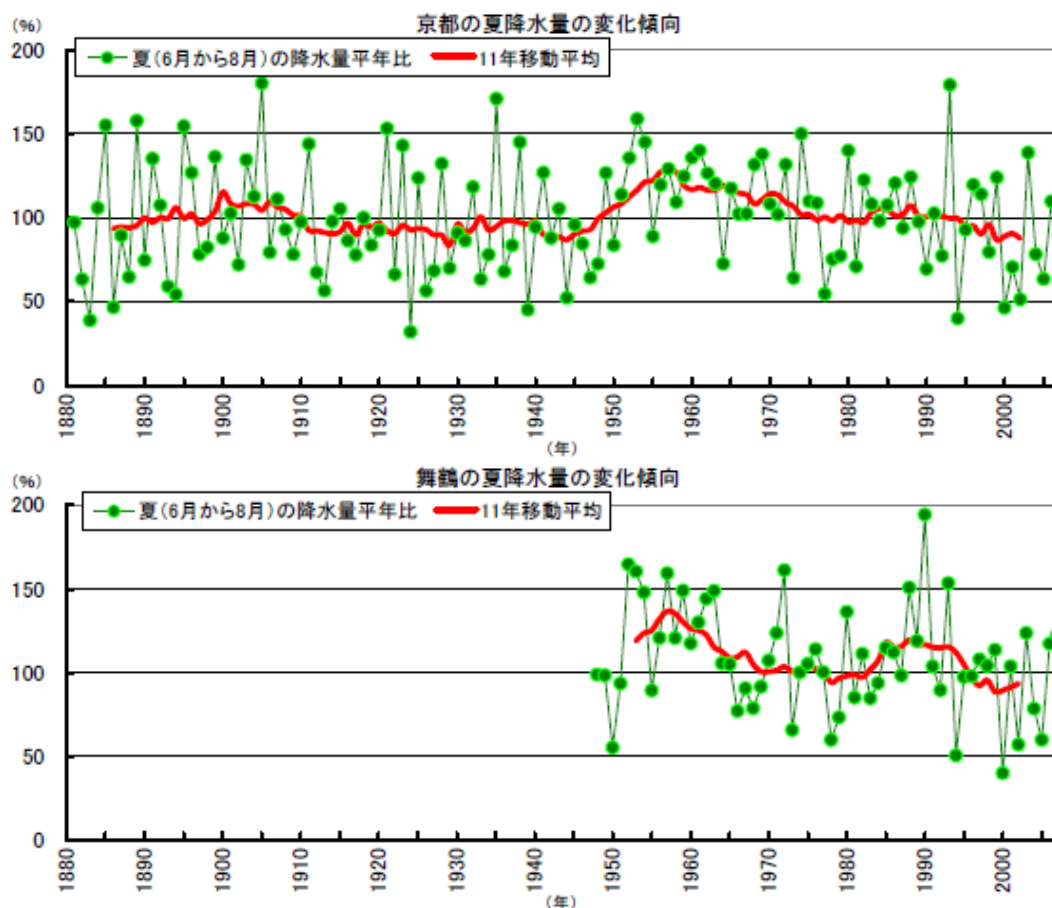


図 2-2 夏（6 月から 8 月）降水量平年比の変化傾向（京都・舞鶴）

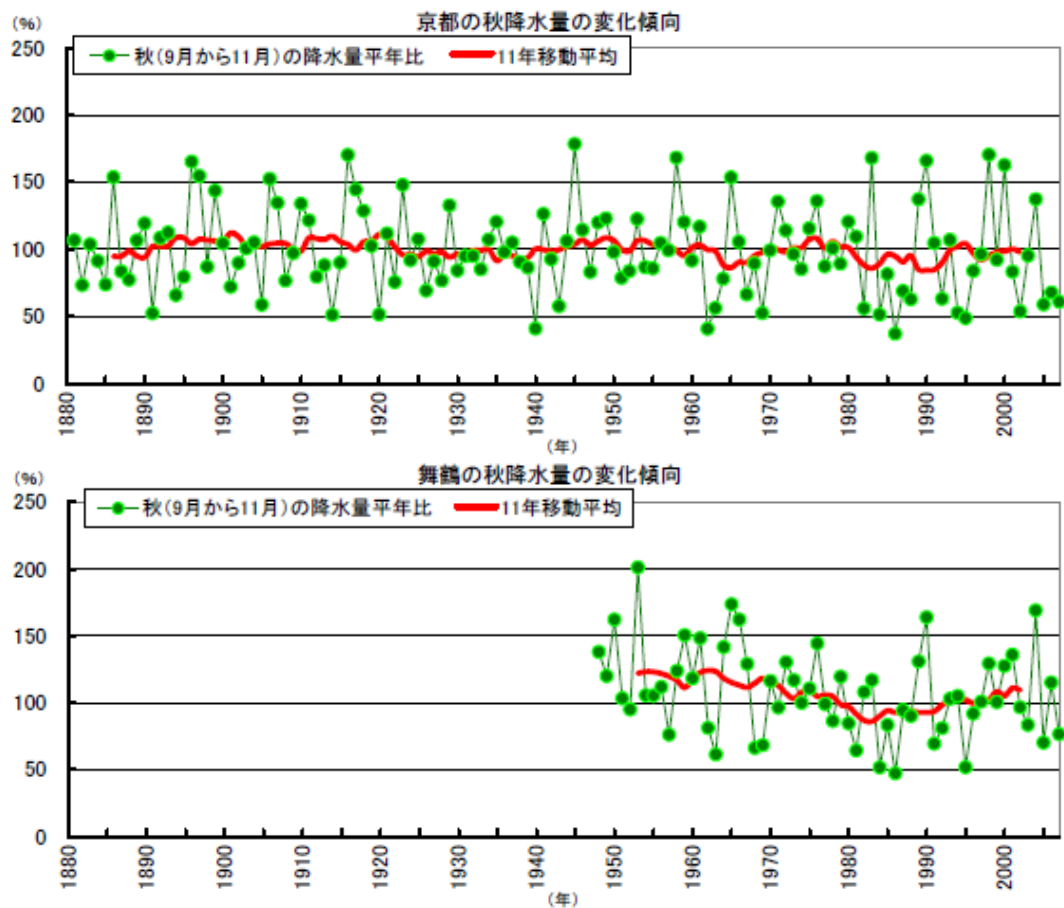


図 2-3 秋（9 月から 11 月）降水量平年比の変化傾向（京都・舞鶴）

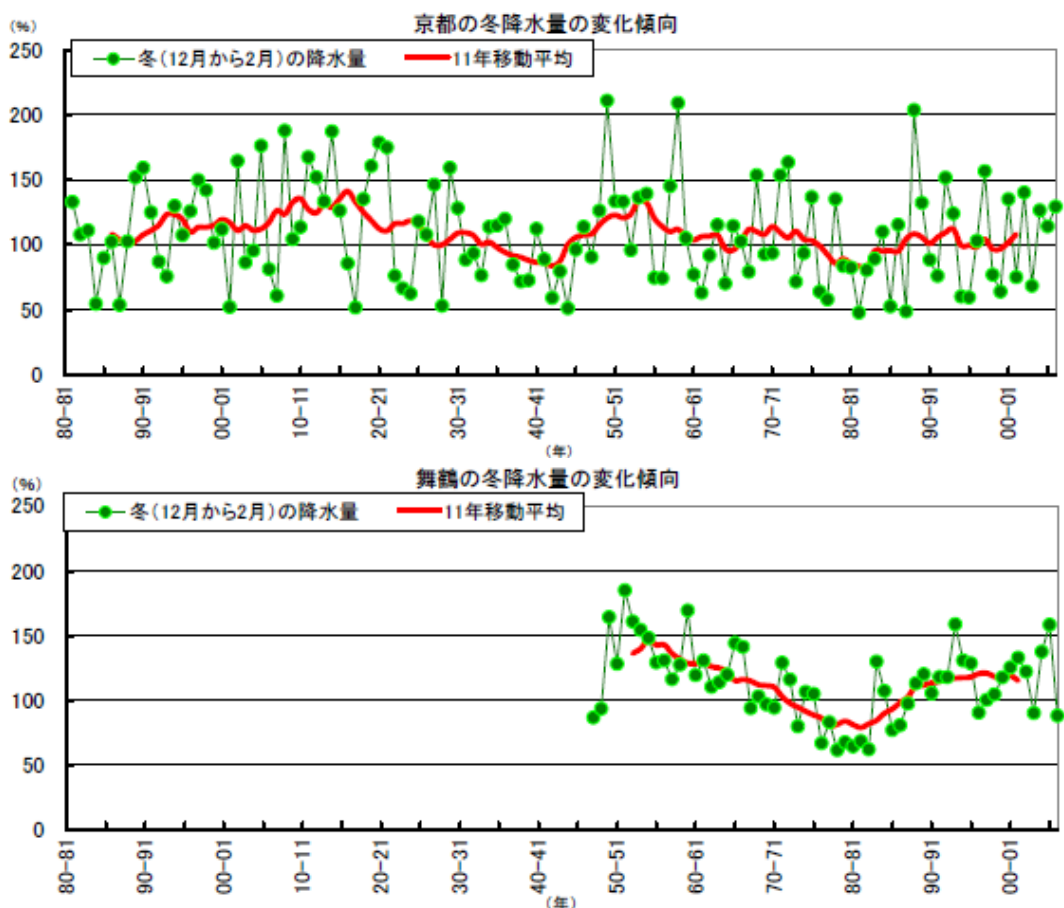


図 2-4 冬（前年 12 月から 2 月）降水量平年比の変化傾向（京都・舞鶴）